

関東甲信越支部シンポジウム

日時：平成30年7月22日(日)
場所：日本歯科大学生命歯学部富士見ホール
講師：土肥 雅彦先生



土肥 雅彦 (神奈川県)



早々に梅雨明けした猛暑盛りの7月22日、飯田橋の日本歯科大学生命歯学部富士見ホールに400名を超える(事前登録時)インプラントロジストが集結し、(公社)日本口腔インプラント学会第9回関東甲信越支部シンポジウムが開催されました。築瀬武史大会長、井汲憲治関東甲信越支部長のご挨拶で始まり、4つのセッションに分かれて12名のシンポジストによる発表とディスカッションが行われました。

僭越ながら当会からは、私が『咬合再建を考慮した理想的な骨造成のための外科的挑戦 ～広範囲欠損への骨髄海綿骨細片移植を中心として～』というタイトルで、大きな骨を繊細に作る手術のポイントをお時間の許される範囲でお話しさせて頂

きました。また、大きな骨造成術に不随して行なう歯槽堤形成術などの手術の重要性やポイントについても触れさせて頂きました。講演のまとめとして、Step by Step・・・インプラント埋入に有利な骨造成を行うには、必要な手術をひとつひとつ順を追って着実に行っていくことが重要で、最良の結果が得られるよう工夫し挑戦すべきであることを述べさせて頂きました。ディスカッションでは又賀先生より歯槽堤形成術のraw surfaceの処理など有意義で楽しい討論ができたと思います。シンポジウム全体も大変盛り上がり、最後に来年は田中譲治大会長のもと日本インプラント臨床研究会が担当となったことが会場内に告げられました。